



愛情たっぷり管理されたほだ場



景山町長に受賞を報告（6月29日）



シイタケ菌が木にまわり良い状態と笑顔

第45回全農乾椎茸品評会《こうしん中葉中肉部門》で 上谷春さん（久住）が林野庁長官賞を受賞する快挙！！

全国でもトップレベルの乾椎茸！高い栽培技術と深い愛情が注がれた一品

高い技術と愛情で 全国品評会で入賞

標高500mにある久住地区でシイタケ栽培を行っている上谷春さんが、6月14日、鳥取市で開かれた第45回全農乾椎茸品評会の「こうしん中葉中肉部門」において『林野庁長官賞』を受賞されました。

この賞は最高賞の農林水産大臣賞に次ぐもので、上谷さんはこの賞の受賞は初めて。「きれいで肉厚なものが収穫できるから見た目はハウス栽培が有利。自分はスギ林の中で自然発生させて栽培させます。つやがあり、力強いシイタケが収穫できるのが特徴で、評価も高い」と上谷さんは自信をのぞかせます。

山を守るため シイタケ生産者に

今年のシイタケの出来栄えについて上谷さんは「久住は3月中旬まで雪がありまだ芽が出ていなかったため、春先の大雪の被害もなく、4月の雨量が少なかったことで、良いシイタケが育った」と安どの表情を浮かべます。

上谷さんは毎年、3000本の木にシイタケ菌を植菌し



「今年収穫したほだ木」と説明する上谷さん

ほだ木を作ります。ほだ木の総本数は1万2千本。集落から1kmほど山に入ると、きれいに整備されたほだ場が姿を現し、ほだ木が何本も並べられていました。

所有していた山を守るために始めたシイタケ栽培は今年で32年。収穫は家族で行います。「家族で収穫するので、一気には難しい。午前中に収穫して、午後には乾燥機に入れることが多いかな」と笑顔を見せます。

町のシイタケ産業が もっと元気になれば

今回の受賞で、町のシイタケ産業が元気になればうれし

いと言葉を弾ませる反面、不安ものぞかせる。「シイタケを栽培する山はあるので、従事する人が増えてほしい。久住は生産者が3人いるが、シイタケ栽培はほだ木を移動させたり、ほだ場を管理するなど重労働。若い人がどれだけ興味を持ってくれるか。生き物だからね、手をかけてやらないと良いものは育たない。子どもを育てると同じ」と今後に期待します。

見学させてもらったほだ場には、久住のきれいな空気の中で次の収穫に備えるほだ木たちが静かにその時を待っていました。

地域の交流深まる

舟場地区で芋植えと運動会

地区公民館活動が活発な舟場地区で、5月26日にサツマイモの苗植えが、6月3日には運動会が開かれ、多くの住民が参加し交流を深めました。

芋は鳴門金時という品種。秋には収穫し、舟場産業文化祭で焼き芋にして振る舞われます。

また、運動会では、玉入れや水入れ競争のほか、アユ釣りなどでにぎやかに汗を流しました。終了後は、懇親会が開かれ、運動会の反省や近況を話すなど、楽しく交流を深めました。



笑顔があふれる公民館活動（左は運動会懇親会、右は芋植え）

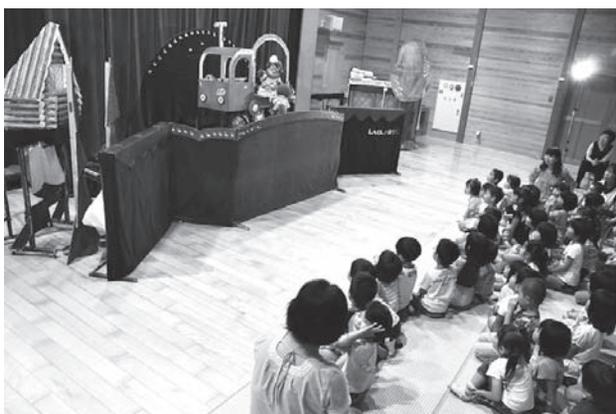
表情豊かな人形のとりこ

人形劇団クラルテおひさま劇場

コミカルに動く人形に子どもたちは釘づけ。会場には多くの笑顔があふれます。

6月14日、親子でアートを楽しむ会「おひさま」（田口郁江代表）の主催で、人形劇団クラルテ（大阪市）のおひさま劇場が開かれました。会場となったひのつこ保育所では、園児や子育て支援室の親子が鑑賞し、楽しいひとときを過ごしました。

公演は2人の劇団員が何体もの人形を操り、それぞれに声を変えて演じます。観客は人形の動きに目を離さず、7色の声のとりこになりました。



園児たちは愉快的な人形劇を楽しむ

街道に息吹が入る

都合山たたら街道整備



川をせき止める倒木などを片付ける参加者

かつて、都合山たたら街道として栄えた道を、ロマンを感じながら整備する取り組みが、6月17日に開かれ、都合山たたらがある上菅の地元住民や町内外から多くのボランティアが参加し、汗を流しました。手入れがされていなかった道を、平成17年から毎年、整備する取り組みが行われています。

当日は、草刈りや倒木の撤去などが主な作業で、参加したIターンの若者や学生ボランティアは大きな力。チェンソーなどで作業する姿は頼もしく感じました。

普段、人が入ることのない街道に息吹が入ってまた道となり、たたら見学に多くの人がやってきます。

多くのファンが詰めかける

サロンコンサート



会場を沸かせる歌とトーク

山陰で人気の歌手、ノグチアツシさんを迎え、6月24日、町文化センター・ホワイエで、サロンコンサート（ホールと共に歩む会主催）が開かれました。

会場には、町内外からノグチさんのファンなど80人が集まり、楽しいひとときを過ごしました。軽快なギターの色と歌声で会場を沸かせるノグチさんにはもう一つの魅力が。それは軽快な安来弁で知られる「安来のおじ」というキャラクター。安来弁のトークと歌に、ホールは割れんばかりの歓声と拍手が送られました。

▼あなたの声や地域・職場での話題をお寄せください。★役場企画政策課まで（電話72・0332）